



+++ TACET news +++ TACET news +++ TACET news +++ TACET news +++ TACET news +++

ドイツ・シュツットガルトの TACET より、ベートーヴェンの交響曲シリーズとして、6 タイトル 9LPs を発売します。

1LP ¥4,900 2LPs ¥9,800 (2017年6月発売)

ヴォイツェフ・ライスキとポーランド室内管弦楽団によって演奏される、ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンのすべての交響曲は、9LPs にて録音を完了させました。リズムカルに鮮明なイントネーション、きびきびとした、エレガントで官能的なエキサイティングな、常にクリアーで保護管理された近代的な楽器による、ベートーヴェンの現代解釈のすべてがここに統一されています。

交響曲のいくつかは、既にLPのバージョン「チューブ・オンリー」として存在していましたが、これらもまたチューブのマイク、アナログテープ録音にて、新しいミックスにて置き換えられ、代わりにより多くのマイクを使用しての結果、より明確なディテールの表現等、多くの重要なメリットを提供しております。

さらに今回の追加されたメリットとして、**ハーフスピード・マスタリング** (Half-Speed Mastered) および**逆再生** (Play backwards) など、このリリースの背後には、TACETの有名な **Boléro**等に代表される、40年間のLP制作のノウハウがあります。

TACET L238

2 LPs ¥9,800

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

交響曲第1, 2+8番

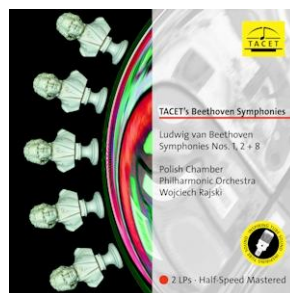
ポーランド室内フィルハーモニー管弦楽団

ヴォイツェフ・ライスキ指揮

感動的なチューブ・サウンド

ハーフスピード・マスタリング

EAN/barcode: 4009850023814



TACET L239

2 LPs ¥9,800

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

交響曲第3+4番

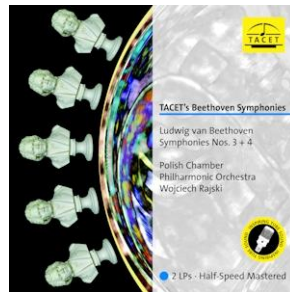
ポーランド室内フィルハーモニー管弦楽団

ヴォイツェフ・ライスキ指揮

感動的なチューブ・サウンド

ハーフスピード・マスタリング

EAN/barcode: 4009850023913



TACET L240

LP-180g ¥4,900

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

交響曲第5番 Cマイナー 作品67

ポーランド室内フィルハーモニー管弦楽団

ヴォイツェフ・ライスキ指揮

感動的なチューブ・サウンド

ハーフスピード・マスタリング

Side 2 : **逆再生** play backwards!

EAN/barcode: 4009850024019



TACET L241

LP-180g ¥4,900

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

交響曲第6番 Fマイナー 「パストラル」 作品68

ポーランド室内フィルハーモニー管弦楽団

ヴォイツェフ・ライスキ指揮

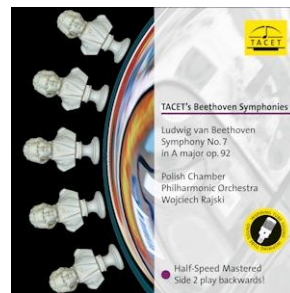
感動的なチューブ・サウンド

ハーフスピード・マスタリング

EAN/barcode: 4009850024118



TACET L242
 LP-180g ¥4,900
 ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン
 交響曲第7番 Aマイナー 作品92
 ポーランド室内フィルハーモニー管弦楽団
 ヴォイチェフ・ライスキ指揮
 感動的なチューブ・サウンド
 ハーフスピード・マスタリング
 EAN/barcode: 4009850024217



TACET L219
 2 LPs ¥9,800
 ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン
 交響曲第9番 Dマイナー 作品125
 ポーランド室内フィルハーモニー管弦楽団
 ヴォイチェフ・ライスキ指揮
 感動的なチューブ・サウンド
 Side 4 : 逆再生 play backwards!
 EAN/barcode: 4009850021919



逆方向に再生 “Play backwards!”: L207, L977, L219, L240



L207 ジャケット解説: oreloB?

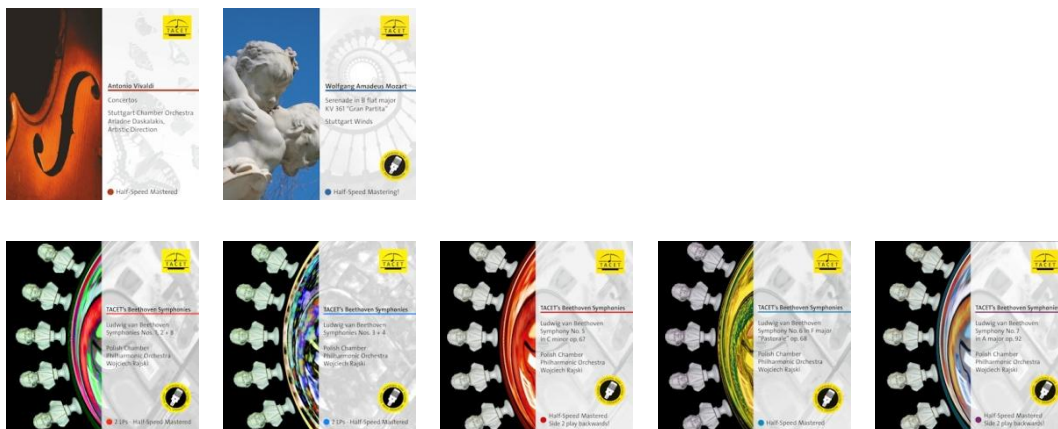


このジャケットではなぜ、Bolero の綴りが逆になっているのでしょうか？ 答えは簡単、針先が音溝を逆に動くからです。ターンテーブルは通常どおり、順方向に回転します。しかし音楽は逆方向、つまり内周から外周へ向かって再生されます。これで普通に再生できるだけでなく、音はずっとよくなるのです。心配は要りません、何も起きませんから。間違っているいつものくせで針を外周に降ろしてしまったとしても、リードアウト・グループのループをずっと走り続けるだけです。反対に内側に行き過ぎた場所に降ろしたときでも、やはり何も起きないのは同じです。実際のリードイン・グループはセンターホールから約7cm(B面では8cm)で始まりますから、最内周というわけではありません。フルオート・プレーヤーなどで、終了スイッチが入ってしまわないようにするためです。針はそのまま音溝に入っていきます。

このレコードがなぜ他のレコードと同じでないのかというわけは、音楽そのものにあります。「ボレロ」は弱音で始まり大音量で終わります。「ラ・ヴァルス」(B面)もこの点では同じです。ターンテーブルの回転数は一定であるため通常のレコードでは、トーンアームが内側へ入るほど単位当たりの長さに対してより多くの情報を詰め込まなければなりません。例えば針先がレコードの回転方向へ40cm 動いたときと、10,000Hz の信号に対しての振動は前後にわずか1mm です。音が小さなきはそれでも動作します。しかし音量が大きくなると溝の刻みが深くなり、問題が起きてくるのです。高域の減衰、歪みなどがそれです。非常に小さな音で始まり極度の音量で終わる「ボレロ」は、いつでもマスタリング・エンジニア泣かせの問題をはらんでいます。しかし逆再生にすれば、マスタリング・システムの感触はずっとよくなります。これによって通常より大きめに再生することができ、バックグラウンド・ノイズとのコントラストがいつそう明瞭になって音質向上につながるのです。

大音量で始まり静かに終わる音楽というのが、実際にあるのでしょうか。逆の方がずっと多いのではないのでしょうか。なぜレコードはいつでも、普通とは違う方法でカットングされないのでしょうか。残念ながらこの最後の問いに答えることはできません。

ハーフスピード "Half-Speed Mastered": L205, L209, L238, L239, L240, L241, L242



基本的にはソースを半分の速度で再生し、カッティングレースも同様に半分の速度で動作させてラッカー盤を製作します。でき上がったラッカー盤を通常で再生すれば、全て元のテンポとピッチで再生されるわけです。

ハーフスピード・マスタリングはより正確で明瞭、精細なカッティングを可能とします。

ハーフスピード・マスタリングについて

ハーフスピードは製作時だけ半分の速度で行うものです！ 再生時は通常の状態と全く変わりません。このレコードには特別な処理は全く必要なく、音質が優れていることだけが特徴です。ちょうど職人が仕事をするのに、2倍の時間をかけるのと似ています。

ハーフスピードではテンポが遅くなるだけでなく、ピッチも2の関数で低下します。例えば 40kHz の音、タッチットの録音ではもちろんこのような高音も含まれます！ これも一般的な録音の 20kHz と同じように記録されるのです。これによって電気系ではより高い周波数まで扱うことができ、カッティング・スタイルはあらゆるディテールをラッカー層の中に静かに刻み込んでゆくのです。この工程は一見大変単純です。しかしカッティングに入る前に信号はさらにもう一段、フィルターつまり RIAA カーブを通らなければなりません。低域を下げ高域を上げるわけです。この変容は技術的に不可欠ですが、再生システムのフォノイコライザーで修正が施されます。不幸なことにこのフィルターは、ハーフスピード・カッティングでは誤った周波数を転送してしまいます。つまり1オクターブが高すぎるのです。しかしタッチットではこの問題も解決しました。自然で色付けのないこの LP の音質は、ご自身でお確かめいただけます。

カッティング・マシン

ノイマン カッティングレース SX74

